

生物多様性を守るために、
私たちができること。

5 ACTIONS



5 actions to save biodiversity.



生物多様性条約
市民ネットワーク

いま、「生物多様性」が危ない！

生物多様性とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのこと。
地球上では、3000万種もの生き物が、お互いに支えあって
生きています。そして人間も、そのつながりの一部なのです。

しかし今、この生物多様性の劣化に歯止めが
かからなくなっています。

環境汚染や水資源の不足、自然災害の増加など、生き物の生命に
直結するさまざまな問題が起きているのです。

じゃあ、どうすればいいの？

生物多様性を知り、実感することが生物多様性を守るための
第一歩です。このリーフレットでは、「生物多様性に対して、
私たちができること」を

5つのアクション

としてご紹介します。



1



旬の食材や、自分が住んでいる
地域でとれたものを食べてみよう。

2



大人も子どもも、みんな
楽しく自然を体験してみよう。

3



あなた自身が、
クリエイターになってみよう。

4



さまざまな活動に参加して、
「きずな」を再発見してみよう。

5



生物多様性保全に貢献している
商品を選んでみよう。

より良い環境を実感し、守り続けるためには、
日常生活での、ほんの少しの心がけが大切です。

「自分にできるところから」でかまいません。

さあ、あなたもはじめてみてください。

Action!



ACTION

1

旬の食材や、自分が住んでいる地域でとれたものを食べてみよう。

Enjoy eating various, "shun" (seasonally best), local food.

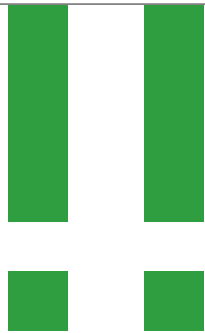
旬の食材は、自然本来の季節の移り変わりの中で、その季節にだけ得られる恵みです。

旬の食材を食べることで、季節の変化を実感しながら暮らすことができるでしょう。

また、自分が住んでいる地域でとれたものを食べれば、その土地ならではの多種多様な食材についての知識が、自然と身につきます。

そうすることで、自分の身の回りの生態系や環境の変化についても、自然と関心が持てるようになります。





ACTION

2

大人も子どもも、みんなで楽しく
自然を体験してみよう。

Enjoy nature with kids and educate them in nature.



つい最近まで、人間（特に子ども）は、自然の中で
さまざまな生き物と接しながら過ごしていました。
そう、自然の中にいることは、生物多様性を知る
何よりの教材なのです。

山に登る、動物園・植物園に出かける、近所の公園を
散歩するだけでもかまいません。さまざまな自然体験を
通じて、地域の特色や、生き物の生態を実感することが、
生物多様性のより深い理解につながります。





ACTION

3

あなたが、
クリエイターになってみよう。

Learn names of various organisms and record them
in drawings, pictures, diary, Haiku etc.

「秋を感じた出来事や自然現象」

「近所で見つけた、生き物のつながり」

「いつも綺麗だと思うけど、名前を知らない花」

など、さまざまな生き物について、

あなたが体験したことや興味を持ったことを、

絵や写真、日記や俳句などで記録してみましょう。



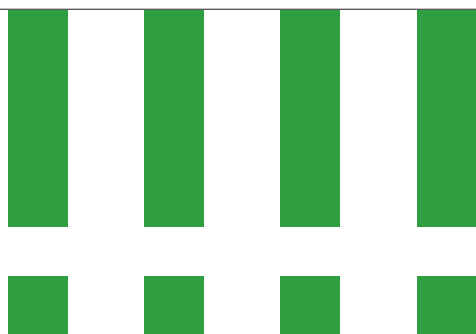
生き物たちの形や名前を覚えることで、私たちの周囲には、

四季折々の生き物が数多くいることがわかるはずです。

四季の移り変わりを肌で感じ、生き物たちの営みに

気づくことで、豊かな自然の素晴らしさを、より身近に

感じるができるでしょう。



ACTION

4

さまざまな活動に参加して、
「きずな」を再発見してみよう。

Participate in various activities of watching, monitoring,
protecting and restoring biodiversity.

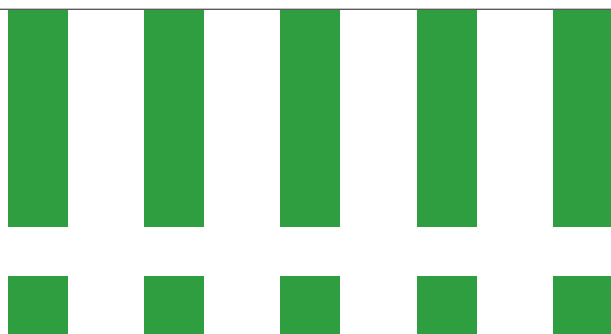
全国各地で行われている、生物多様性の
観察・調査・保全・再生活動に参加してみましょう。

「地域の自然に育まれた、温泉の個性を楽しもう！」

「秋の味覚を探そう！」など、誰でも楽しく
参加できるイベントは、たくさんあります。

生き物同士のつながりや、
人の暮らしと自然のつながり、
過去・現在・未来のつながりなど、
さまざまな「きずな」
実感してみましょう。





ACTION

5

**生物多様性保全に貢献している
商品を選んでみよう。**

**Choose goods and companies contributing to biodiversity
conservation / restoration.**



たとえば、

「生物多様性に配慮した林業で育まれた木材を扱う
会社」や、「水産資源や海洋環境を守って獲られた
水産物を扱う会社」など、生物多様性の保全に貢献している
企業の、商品やサービスを選びましょう。

私たち消費者がきちんと意思表示をし、
生物多様性保全活動に取り組む企業を
応援すれば、市場全体の姿勢を変えていく
大きなチャンスになります。



「生物多様性」って、なに？

生物多様性には、3つ多様性があります。



森林・里地里山・河川・
湿原・サンゴ礁など、
色々な自然があります。

微生物から動植物まで。
地球上には、さまざまな
生き物がいます。

同じ種でも、その遺伝子は
さまざま。形や模様、生態などに
多様な個性があります。



生物多様性の恵み（生態系サービス）

私たちが日々「当たり前だ」と思っていること
(生活のための物資、健康や安全、景観など)も、その多くは
生物多様性のもたらす恵みの上に成り立っています。

- 【供給】 食糧や水、木材、繊維、燃料など、生活を支える物の提供。
- 【調節】 大気、気候、水、土壌、花粉媒介などを調節する機能。
- 【文化】 精神的・肉体的な癒し、美しさを感じることなどの恩恵。
- 【基盤】 光合成や土壌形成、水の循環など、生命の基盤となるもの。

CBD 市民ネットのご紹介

2010年10月、愛知県名古屋市で、「生物多様性条約（以下、CBD）第10回締約国会議（以下、COP10）」および「カルタヘナ議定書第5回締約国会議（以下、MOP5）」が開催されます。

「生物多様性の保全」というCBDの目的を達成するためには、多様な主体が参加し、地域、国全体、地球規模で取り組む必要があります。また、この条約は特に「市民社会の参画」を重視しており、日本に住む私たちにとっても、COP10/MOP5は重要な意味を持つ会議となります。

私たち「生物多様性条約市民ネットワーク（略称：CBD市民ネット）」は、CBDの目的の達成に向けて、これまでに蓄積した知見と経験を共有し、締約国などに対して、地球規模の課題解決に向けた合理的提言および情報発信を行うために設立されました。



「国連生物多様性の10年」決議案提出について

2010年5月、COP10の議長国である日本は、

- COP10後の10年間を「生物多様性の10年」と定め、
 - 国際社会が重点的に保全対策に取り組むこと、
 - そしてそのサポートを国連に求めること、
- を盛り込んだ決議案を提出する方針を固めました。



世界各国の対策が十分に進んでおらず、生物多様性の喪失が深刻な現在、COP10の最も重要な議論のひとつ「ポスト2010年戦略行動計画(2020年目標)」は、より具体的かつ測定可能な活動にしなければなりません。そのためには、締約国のみならず、市民社会や企業を含むすべてのセクターの計画と行動、そして議論が必要です。

私たちCBD市民ネットは、「国連生物多様性の10年」に向けて、市民社会はどのように取り組むべきか、をみんなで考えていきます。ぜひ、皆さんの意見を聞かせてください。

生物多様性を知る・守るための、さまざまな活動

生物多様性じぶん条約

じぶんと地球の間に、条約を結ぼう！
そしてそれを、Twitterやイベントで宣言しよう！

「国産木材のギターで歌います!」「旬のものを食べます!」など、必ず自分ができること、やってみようと思うことを、できるだけ具体的な形で条約にしてください。Twitterだけでなく、各地のイベントやフェスでも集めています。(ハッシュタグは「#jibun_joyaku」)

<http://www.i-cbd.org/>

想いでつながろう! COP10 おりがみプロジェクト

国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)

日本の伝統文化「おりがみ」をきっかけに、
「ひとりひとりができること」を一緒に考えよう。

おりがみを折る時間を、「いのちのつながり」に想いを馳せる時間に。
そこで生まれた「10年後の未来」に向けたメッセージを集め、
生物多様性について考えるきっかけづくりを行っています。

<http://www.cop10-origami.com>



生きものも人間も幸せになる
仕組みをつくらう。

生物多様性条約
市民ネットワーク

監修：矢原 徹一（九州大学大学院理学研究院教授）

生物多様性条約市民ネットワーク（CBD市民ネット）

〒460-0003

名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル4F

環境省中部環境パートナーシップオフィス内

TEL：080-6976-4005 FAX：052-218-8606

Email：jcnforcbd@gmail.com

www.cbdnet.jp

この冊子は、地球環境基金の助成で制作されました。